

# 農家型



## 館家 平屋型

【所在】本町四丁目

【建築年】明治十年頃

鶴来<sup>つるぎ</sup>の山手に建っていた家を移築したといえます。前面に土蔵<sup>どそう</sup>があり、その分だけ梁間が狭いため、切妻屋根が二重になっています。

本町の農家は農村部と異なり、仏壇の向きや間取りに町家的要素がみられる家もあり、農村と宿場という本町の性格が表れています。

## 平屋型

明治～大正期

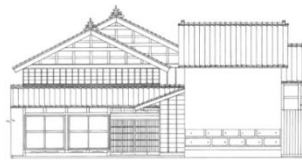
妻入りの平屋建てで、表には三角形の妻壁<sup>つまかへ</sup>が大きく立ち上がります。この妻壁に束と貫を格子状に組んで、木と白い漆喰との対比が美しく、本町ではこの下が少し長い下屋になっています。

例 小西家<sup>こにしげ</sup>（本町四丁目）明治四十年築

## 二階型

表構えを高くし、妻壁面は五角になります。茅葺き農家<sup>かやぶ</sup>を瓦葺き<sup>かわらぶ</sup>へ改修する際に二階型となった場合が多くあります。

例 宮岸家<sup>みやさしげ</sup>（本町一丁目）昭和三十年築



平屋型



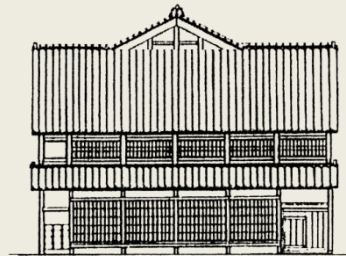
二階型

町家風農家は、農家の間取りを持ちながら、表構えは平入りの町家である家です（前平奥妻型）。

つまり、妻入りの農家の前面に平入りの町家の表構え2間分を加えた形ということになります。

この表構えの部分に二階はなく、大きな空間のミセノマになっています。

このような形態の家が本町に多い理由は、商業が発達し、金沢城下に近いことから町家の表構えをとる農家が増えていったことが挙げられます。



## 町家風農家（前平奥妻型）

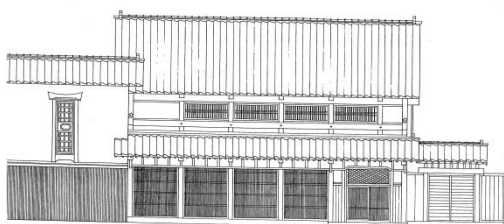


## 瀬尾家

【所在】本町三丁目

【建築年】江戸末期

表は明治二十年頃に改造し、低町家型の見え目となりました。奥は妻入りで、間取りも農家型です。



瀬尾家立面図

見えた目は平入り町家型ですが、奥は妻入りです。